

Beaute Velte

2025

ボーテ・ベルテ — Sustainable Beauty
Magazine by JSCF
JSCF 会報誌 Vol.5

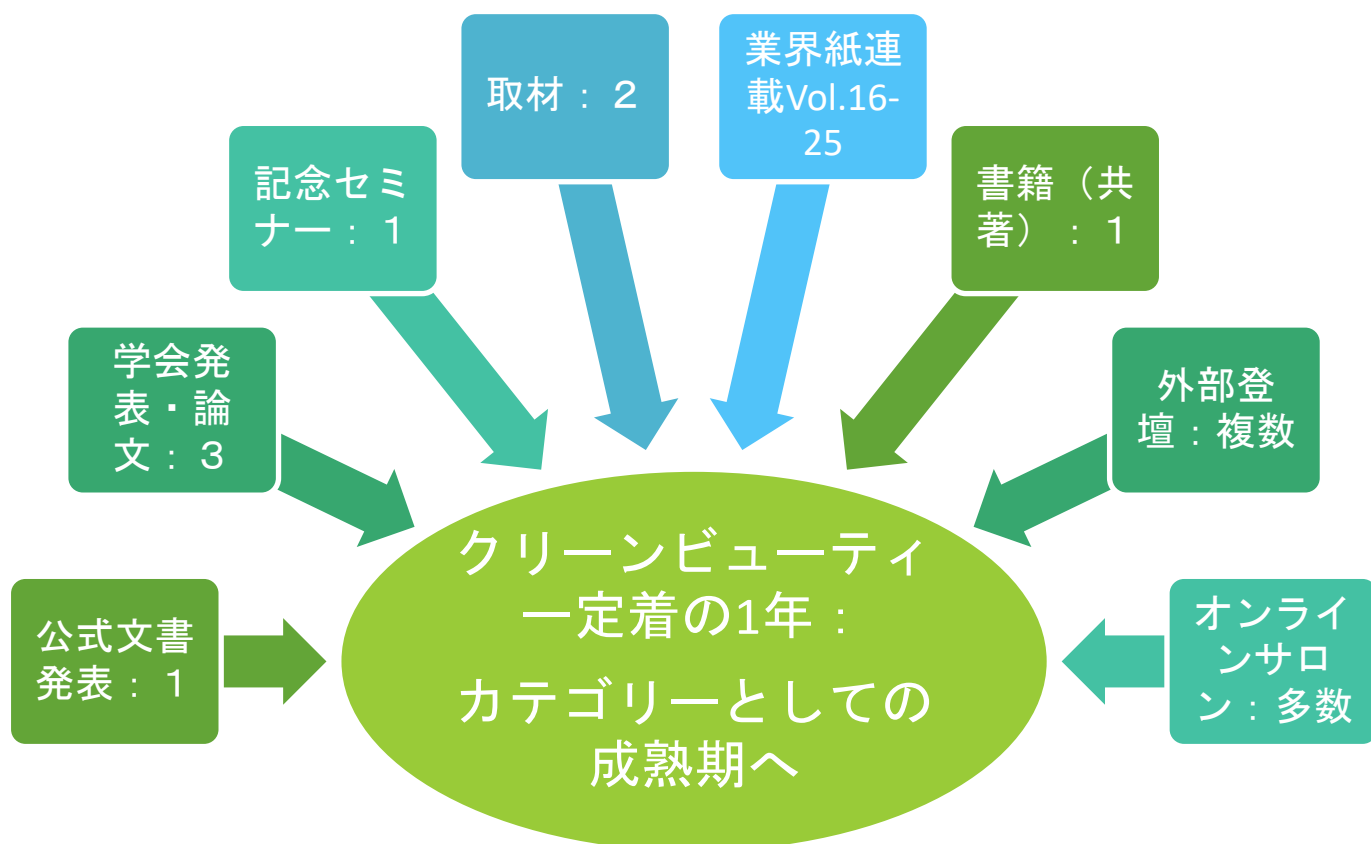
2026 年 1 月 22 日

Publisher : 日本サステナブル化粧品振興機構

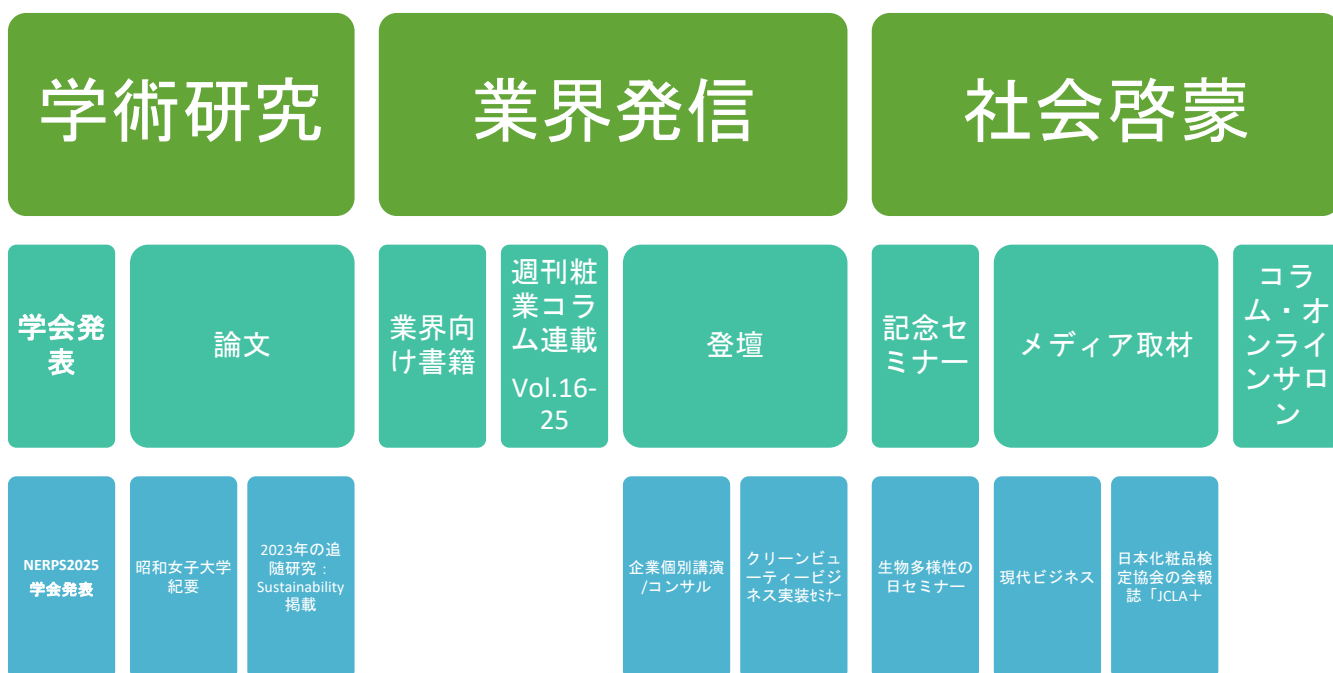


日本サステナブル
化粧品振興機構

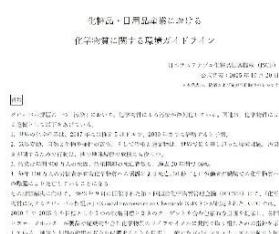
2025 年の JSCF



2025 Activities Overview



2025 公式文書



環境に特化した初のガイドライン「化学物質に関する環境ガイドライン」

公式発表日：10月20日

ダウンロード : <https://sustainable-cosme.org/official-announcement/>

2025 学会·研究成果

	研究テーマ	結果	業界への示唆
NERPS2025 ¹	Exploring the Potential of Blue Economy on Biodiversity Conservation in Cosmetic Industry	・ブルーエコノミーは、化粧品原料調達や製品開発において、生物多様性保全と両立可能な枠組みとなり得る。	（１）サンゴ保全 （２）湿地帯におけるマングローブ保全 （３）プラスチックなどの海洋汚染 に対応することで、化粧品業界でもブルーエコノミーに貢献できる。
昭和女子大学紀要 ²	日用品（パーソナルケア）業界の生物多様性配慮	・日本のパーソナルケア業界では、生物多様性への配慮が理念レベルに留まり、具体的基準や指標が不足。 ・調達・サプライチェーンでの実装が不十分。	・「配慮します」では不十分で、調達基準・評価指標の明確化が不可欠。 ・業界横断的なガイドライン整備の必要性。

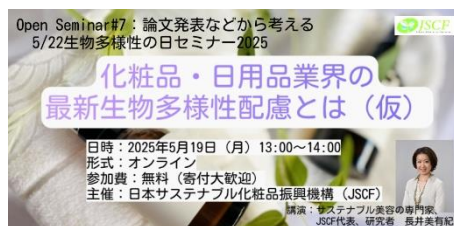
¹ **NERPS2025**：広島大学・フィリピン大学などが参加する「平和とサステナブル化粧品」学会（NERPS）、2025 年 3 月、フィリピン

² 昭和女子大学現代ビジネス研究所紀要、2025 年 3 月 31 日刊行

Sustainability ³ 掲載	How Awareness of Organic JAS and RSPO Labels Influences Japanese Consumers' Willingness to Pay More for Organic Cosmetics	・消費者は認証ラベルを十分に理解していないが、理解が高まると支払意思額が有意に上昇。 ・認証の「数」より「意味の伝達」が重要。	・認証取得だけでは価値にならず、説明・情報開示がブランド価値を左右。 ・サステナビリティ表示は、教育・コミュニケーションとセットで設計すべき。
--------------------------------	---	--	--

2025 セミナー・登壇

Open Seminar#7 生物多様性の日 記念セミナー



タイトル：『研究発表から考える化粧品や日用品の生物多様性配慮とは』

開催日：5月19日

示した価値：国内の生物多様性取り組みの状況分析、化粧品のブルーエコノミーへの示唆、ほか

³ 海外ジャーナル（MDPI）、2025年8月25日掲載

メディア情報

週刊粧業コラム連載 Vol.16-25

週刊粧業

The Syukan Syogyo

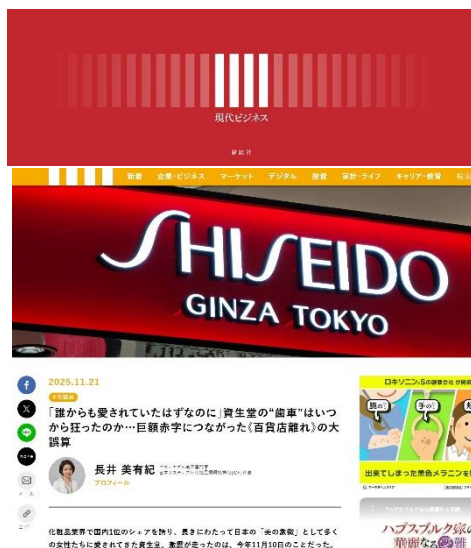
(9) 2025年(令和7年)12月8日 週刊



<https://www.syogyo.jp/column/cat28>

【示した価値】サプライチェーンやアニマルウェルフェアなどの社会問題、環境ビジネス、化学物質のポジショニング、COP30からの期待についてなど業界向けへ提供

取材



講談社 現代ビジネス

掲載日：11月21日

◎前編：「誰からも愛されていたはずなのに」資生堂の“歯車”はいつから狂ったのか…巨額赤字につながった《百貨店離れ》の大誤算

<https://gendai.media/articles/-/160505>

◎後編：資生堂の520億円赤字転落、真犯人は《無意味なM&A》だった…買収した米スキンケアが苦戦を強いられた「本当の理由」

<https://gendai.media/articles/-/160508>

【示した価値】クリーンビューティーの定着への示唆

日本化粧品検定協会の会報誌「JCLA+」Vol.13

掲載日：12月1日

巻頭特集『美容好きなら知っておきたいクリーンビューティ』（P5-6）

【示した価値】一般へのクリーンビューティー価値提供

2025 コラムそのほか

書籍



「化粧品にかかわる海外・国内の法規制・薬事対応」(情報機構発行)

刊行日：5月14日

共著：JSCF 代表 長井美有紀、ほか業界著名企業担当者多数

担当章：✂第2節 化粧品産業が注目すべき各種政策・規制やガイドライン

✂第3節 化粧品の認証・取得に関わる動向

【示した価値】サステナビリティやクリーンビューティーのテーマを盛り込んで解説したことで、業界への新しい価値創造を提供

コラム

- 【News】AIが予想する2025年の化粧品業界動向は？
- <https://sustainable-cosme.org/2025/03/04/news115/>

AIが予測に...



- COP30見どころとクリーンビューティー分野における期待
- <https://sustainable-cosme.org/2025/10/23/column132/>

COP30見どころ



- COP30の成果が化粧品産業にもたらすインパクトー Global Mutirão 合意を踏まえた化粧品業界への示唆ー
- <https://sustainable-cosme.org/2025/12/04/column136/>

COP30インパクト



代表メッセージ／2026 年の位置づけ



グローバル動向の余波から、国内でもクリーンビューティーに注目が集まりました。一般の方の、クリーンビューティーの真髄である「安心・安全と透明性」へのニーズが高まったことによるものではないでしょうか。安心・安全と透明性の追求は、化粧品のサステナビリティ達成への道筋になりえます。ビジネスの面からも、これを受けて、クリーンビューティーの話題性や産業への貢献などが注目されはじめました。取材や講演依頼など多数いただきました。今後はクリーンビューティービジネスへの実装や展開が盛んになってくるでしょう。当団体では、それに合わせ、独自クリーンビューティー基準づくりや提言など継続してまいります。

このように、2025 年は、おかげさまで業界内外からクリーンビューティーが大変注目された年になりました。2026 年は、5 周年の節目。この 5 年で、国内ではサステナブルビューティー／クリーンビューティーが定着し、カテゴリーとしての成熟期に入りました。それに合わせ、JSCF は未来を見据えた大幅リニューアルを予定★『JSCF5 周年 Statement』の発表をお待ちください。